

発刊にあたって

森林を眺めると、沢沿いにスギが、斜面にはヒノキやカラマツが、尾根にはアカマツが生育していることが多く見られます。

林業関係者の皆さんには「尾根マツ、沢スギ、中ヒノキ」という言葉として馴染み深い事柄です。これは、「この土にはスギ、この土にはアカマツ」というように、その立地環境を読み取り、その場所に適した樹木を植えるという、長年の経験から培われたものであったと思われま

す。その後、科学的に「尾根マツ、沢スギ、中ヒノキ」は合理的な考え方であることが示され、立地環境に生理的に適した樹木を選定し、植栽を行う「適地適木」が実施されてきました。この「適地適木」の基本は、森林土壌の詳細な調査によって導かれた成果であります。

近年、森林の姿は、資源培養の場としてだけでなく、防災や環境資源として、私たちの生活になくはならないものとなっています。森林の土は、森林を構成する重要な要素であることを十分理解することが必要であると思われま

す。そこで、日本の森林土壌調査・研究が全国的に開始された創設期から、森林土壌の調査研究をなされてきた、元森林総合研究所、現長野県林業大学校講師の仙石鐵也氏に、『森林の土をみつめて』と題し、森林土壌の基礎情報を取りまとめていただきました。

本書の発刊にあたり、森林・林業ならびに森林環境学習に携わる指導者、学生の皆さんなど、多くの皆様にご活用いただければ、たいへん幸甚の極みでございます。

平成20年（2008年）3月

社団法人 長野県林業コンサルタント協会

理事長 宮原 毅